

国指定天然記念物 琴ヶ浜

平成29年10月13日指示告示

島根県中央部沿岸の大田市仁摩町馬路に位置する琴ヶ浜は、日本有数の鳴砂（なきすな）浜です。鳴砂は主に円磨された淘汰の良い石英砂で構成されており、鳴砂浜を歩くと砂粒子が摩擦して音を発します。琴ヶ浜では、砂浜のほぼ全域に鳴砂が分布しており、良好に維持されています。地元で鳴砂は「なりすな」と呼ばれて親しまれており、琴ヶ浜が盆踊りなどの年中行事の場となっています。加えて地域住民による保全活動も盛んであり、清掃活動や学習会などの鳴砂を保全し、その価値を伝える活動が推進されています。

大田市沿岸の海岸線は、標高50～70メートル前後の丘陵地が直接日本海に接し、複雑に入り組んだりアス海岸です。このなかで琴ヶ浜は、延長1.38キロメートルの円弧状の砂浜で、湾口長2.25キロメートル、奥行長1.20キロメートルの湾奥に位置します。湾は西北西方向へ大きく開いているため、冬季に卓越する西北西の季節風やそれによる風波が直接入り込む形状となっています。

琴ヶ浜の陸側には、海岸線と平行に標高10メートル前後の砂丘が位置し、馬路及び神子路の集落が立地しています。その内陸側は、標高10～80メー

ルの開析された古期扇状地及び古砂丘を経て、馬路高山（標高499.4メートル）及び城上山（標高411メートル）へと続きます。馬路高山は大江高山火山群の一部をなし、小規模ながら急峻なドーム状の形状をしています。河川は、馬路高山を水源とする全長約1.65キロメートルの塩郷川が最長であり、集水域も1.42平方キロメートルと比較的小規模です。そのため、琴ヶ浜の砂の主たる供給源は石英に富む古砂丘（差海層）と、湾の両端の岬を構成する流紋岩質火砕岩（久利層）に限られます。

琴ヶ浜が面する湾の海底地形は、湾の開口部付近でも水深20メートルあまりにしか達しておらず、顕著な速浅です。そして、波や潮流によって、泥などの細粒成分は湾外へと運び去られ、湾内に細粒砂が卓越するという粒度分別が生じています。また、波浪により石英砂は、水深10メートル以浅に位置する碎波帯（沖からの波が崩れ始める位置から汀線までの海域）と砂浜の間を往復運動して洗浄・円磨され、砂浜に鳴砂として安定供給されています。

このように琴ヶ浜は、鳴砂が広く分布していることが確認され、その形成には砂浜だけでなく海底地形も含む湾の構造や風波が大きく関わっており、鳴砂を維持する機能を保持していることから、鳴砂浜の典型として貴重です。

日本有数の美しい鳴砂の浜

国指定天然記念物

琴ヶ浜

島根県大田市教育委員会



位置図



清掃活動

琴ヶ浜は、住民にとって中庭のような存在であり、日常的に清掃が行われています。また、年に数回、地域をあげて行われ、学校・企業・各種団体などもそれぞれ清掃活動を行っています。



琴ヶ浜の盆踊り

昭和39年12月10日指定
大田市無形民俗文化財

江戸時代初期より続く伝統行事で、琴ヶ浜盆踊保存会により継承されています。

毎年8月13日から15日の3日間行われています。

琴ヶ浜町民運動会

馬路地区のみなさんは、毎年5月3日に琴ヶ浜の砂浜で盛大に運動会を行っており70回以上続いています。



天然記念物 琴ヶ浜 指定範囲 (砂浜及び海面)

